

# SETOGIWA TIMES

発行所：行政書士塩見事務所 E-mail: [info@setogiwa.com](mailto:info@setogiwa.com) Web: [www.setogiwa.com](http://www.setogiwa.com)  
大阪市中央区谷町 2-5-4 702号 Tel: 06-6946-9505

## ① 気ままなファン気質

サッカーワールドカップで日本が（予想外にも？）決勝トーナメントに進出しました。ワールドカップ開催前に「岡チャン、やめろ！」と大合唱していたファンは、さて次にどんなコメントを送るのでしょうか？

日本のファンは辛抱が足りないようです。成果が出ないことには我慢ができず、ちょっと成績が悪いと「監督交代しろ！」と卵を投げつけます。移り気でわがままで、じっくり見守ろうという眼差しに欠けています。

ファンが監督を遠慮なく攻撃するのは直接人間関係のない気安さからでしょうが、より近い関係の中でも、自分を安全圏において相手を攻撃する場面が見られます。「自分は応援（ここまで）しているのに、監督（相手）は何もしていない」という意識が、自分の立場を正当化します。

## ① 自分はいつも正しい

最も親密な人間関係であるはずの家族にも些細なことで亀裂が入ることがあります。遠慮なくものをいう、言うてはいけないことも深く考えずに口にしてしまうなど、親密さがかえって裏目に出るようです。

現に起こっている悪い出来事の原因を過去にさかのぼって追究するとなると、これまでの相手の不始末をとめどなく並べ立てたりします。



過去の記憶はあいまいなものです。現在が受け入れがたい状態であればあるほど過去は自分の思いに沿って脚色されます。そこでは常に、正しいのは自分で間違っているのは相手方です。感情が対立しているとき「自分が間違っていた」と認めるのは難しいことですが、事実をありのままに思い出すのはもっと難しいことです。

## ① 思いをコトバにできない

日本人には、昔から感情を表に出さないことをよしとする傾向があります。言葉を慎んで相手を受け入れる態度は一見平和的に見えますが、根本的な問題解決とはなりません。感情をじょうずに表に出せればいいのですが・・・。

例えば外食をして「店の対応が悪い」「味に不満がある」などということがあったとき、来店客の反応はふたつ、苦情を言うか、黙って次から行かないか。

それがなじみの店なら改善を求めて苦情を言います。行きずりの店なら何も言わずに店を出て、二度とそこには行かないでしょう。

同じ苦情でも改善を期待しない苦情はけして前向きに受け止められず、店側も「困った客だ、早く帰ってほしい」と思うだけです。苦情を言った方も言われた方も後味の悪さが残るだけなら「黙って店を出る方がまし」です。

目の前の人間関係はかけがえのないものなのか、無くしてもいいものなのか。かけがえのないものなら改善を求めて苦情を言わねばなりません。

感情を表に出すことに慣れていないせいで言い方を間違ったり、思いを言葉に置き換え切れなかったりすることもやむを得ません。目的は相手に本音をぶつけることです。言葉尻をとらえて揚げ足を取りあうようなことをせず、自分の真意を相手に伝えることに集中すべきです。



注文をつけたくなるのは相手に関心があるからで、関心がなければ何も言う気になりません。「いけ好かない奴だ。やることなすこと気に入らない。」と思いながら、目を離すことができないのは相手に関心を持っているからです。

自分では気づかずに自分と似たところを相手の中に見出しているのかも知れません。

ほかにもできます：相続・遺言/交通事故/告訴・被害届/パスポート手続

E-mail: [info@setogiwa.com](mailto:info@setogiwa.com) Web: [www.setogiwa.com](http://www.setogiwa.com)

人間の心の動きは理屈で説明のつかないところがあります。同じ言葉でも使う人によって共感したり反感を持ったりします。相手の持つ雰囲気＝話し方やしぐさや表情が言葉と結びついて一つのメッセージとなるからでしょう。